

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校一般科目では、Ⅱ目的にて述べたように8項目の具体的な学習・教育目標を設定し、担当教員はこれを達成すべく配当された教育課程表(別添資料3-1-①-1)の各科目を担当している。一般科目担当専任教員は、高等専門学校設置基準を満たす18名により構成され、その担当教科の内訳は国語2、社会2、数学4、理科2、英語5、保健体育3であり、教員の専門分野を考慮した適切な配置がなされている。これに経験や専門分野の見識を考慮して選ばれた29名の非常勤講師を加え、幅広く設定された諸科目の教育に当たっている(資料3-1-①-2)。ここに見られるように専任教員は専門分野を考慮し、担当時間数にも偏りなくバランスよく配置されている。また、外国人の専任教員において実践的な英会話能力獲得のための科目にあてるなど、本校一般科目の学習・教育目標の効果的な達成を意図した担当配置を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当専任教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程表に配当された科目構成と比してバランスのとれた専門分野の配置となっている。専任教員にあっては専門分野や担当時間数の均衡化にも配慮しつつ、一般科目の学習・教育目標達成のために適切な担当配置を行っている。

以上のことから、本校一般科目担当教員は、教育の目的を達成するために適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

各専門学科においては、学習・教育目標の8項目を具体的内容に設定し、これらの目標を達成するために、教育課程(別添資料3-1-②-1)を設定している。教員は、専門分野を照らし合わせて、かつ高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしつつ、目標を達成するための科目設定(後掲・基準5)に基づいて、バランスの良い適切な配置(資料3-1-②-2)がなされている。機械工学科、電気情報工学科においては、他の2学科と比べ、教員数がそれぞれ2名と3名多い。これは機械工学科教員が、全学科、4・5年開講の専門基礎科目である応用数学、応用物理等を担当し、電子情報工学科については、4年次以降コース制の導入により、より時代の要求にマッチした教育の実施によるものと、全学科の1・2年の情報系授業を担当しているためである。また、目標を達成するために、より広い分野に科目展開を行っており、このため、専任教員で対応できない為に、多くの非常勤講師でカバーしている。

(分析結果とその根拠理由)

学習教育目標の具体的内容を各学科が設定し、それを達成するために教育課程が適切に編成されている。科目担当教員は高等専門学校設置基準の人数を満たし、専門分野を考慮して適切に配されている。また、担当科目数も偏ることなくバランス良く配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な各学科の担当教員は適切に配置されている。

資料 3 - 1 - ② - 2

平成 17 年度授業科目担当教員一覧 (専門学科)
(機械工学科)

機械工学科			専任													他	非常勤									
			氏名	國峰 寛司	小池 勝	境田 彰芳	前田 良昭	丸茂 榮佑	加藤 隆弘	松下 通紀	森下 智博	石橋 進	関森 大介	藤原 誠之	花田 治行	本村 士郎	宮本 行庸	小野田 光宣	廣田 和男	浅田 俊和	森上 泰稔	川口 正隆	永井 道彰			
開講年次	必修/選択	授業科目名	開講期	単位数	専門分野													情報科学								
					教授	教授	教授	教授	助教授	助教授	講師	講師	講師	講師	助手	助教										
1	必修科目	プログラミング基礎	通年	2																						
1	必修科目	設計製図Ⅰ	通年	2									○													
1	必修科目	工作実習Ⅰ	通年	2											○											
1	必修科目	機械工学基礎	前期	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
2	必修科目	プログラミング応用Ⅰ	後期	1																						
2	必修科目	機械加工Ⅰ	前期	1						○																
2	必修科目	機械加工Ⅱ	後期	1						○																
2	必修科目	設計製図Ⅱ	通年	2						○						○										
2	必修科目	工作実習Ⅱ	通年	4						○						○										
2	必修科目	解析演習	後期	1		○																				
3	必修科目	材料力学Ⅰ	通年	2							○															
3	必修科目	材料学Ⅰ	通年	2			○																			
3	必修科目	機械加工Ⅲ	前期	1						○																
3	必修科目	設計製図Ⅲ	通年	4			○									○										
3	必修科目	総合実習	通年	4						○						○										
3	必修科目	設計工学Ⅰ	後期	1								○														
3	必修科目	機構学	通年	2					○																	
3	必修科目	工業力学	通年	2	○																					
4	必修科目	応用数学	通年	4							○															
4	必修科目	機械数学	前期	1	○																					
4	必修科目	物理学実験	前期	2										○	○											
4	必修科目	情報処理Ⅳ	通年	2									○													
4	必修科目	材料力学Ⅱ	通年	2								○														
4	必修科目	材料学特論	前期	1		○																				
4	必修科目	熱力学	通年	2					○																	
4	必修科目	流体力学	通年	2		○																				
4	必修科目	設計製図Ⅳ	通年	4								○														
4	必修科目	機械工学実験Ⅰ	後期	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
4	必修科目	設計工学Ⅱ	前期	1								○														
4	必修科目	電気工学	通年	2														○								
4	必修科目	機械力学	通年	2				○																		
4	必修科目	力学演習	後期	1	○																					
4	必修科目	機械工学ゼミナール	後期	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
5	必修科目	材料学特論	前期	1		○																				
5	必修科目	設計製図Ⅴ	通年	4														○								
5	必修科目	工学実験Ⅱ	通年	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
5	必修科目	計測工学	前期	1				○																		
5	必修科目	自動制御	通年	2				○																		
5	必修科目	卒業研究	通年	6	M科全教員																					
5	選択科目	流体力学特論	前期	1		○																				
5	選択科目	伝熱工学	前期	1					○																	
5	選択科目	生産工学	後期	1															○							
5	選択科目	材料力学特論	前期	1		○																				
5	選択科目	電気工学特論	前期	1														○								
5	選択科目	経営工学	後期	1																○						
5	選択科目	環境工学	前期	1																	○	○				
5	選択科目	知的財産	後期	1																			○			
5	選択科目	熱統計力学	後期	1									○													
5	選択科目	ロボット工学	後期	1										○												
5	選択科目	破壊力学	後期	1		○																				
5	選択科目	電子制御	前期	1									○													
5	選択科目	工学解析Ⅰ	前期	1		○																				
5	選択科目	工学解析Ⅱ	後期	1	○																					

担当科目数

8 8 10 7 7 10 6 6 8 8 8 6 1 2 1 1 1 1 1 1

(出典 平成17年度教育課程表及びシラバスより作成)

資料 3-1-②-2

平成 17 年度授業科目担当教員一覧（専門学科）（続き）
（都市システム工学科）

都市システム工学科				専任													他学科					非常勤						
				大橋 健一	角田 忍	澤 孝平	種 和秀	友久 誠司	江口 忠臣	石丸 和宏	神田 佳一	越智 内士	桑原 義文	渡部 守義	佐村 敏治	松本 通紀	藤原 誠之	花田 治行	前田 良昭	関森 大介	向山 寿孝	山本 勲	砂田 久吉	小野田 光宣	木村 一成	澤田 俊郎	吉永 清克	高 宏直
都市システム工学科				都市計画	コンクリート工学	土木工学	環境地盤工学	建設施工システム	河川工学	鋼構造工学	測量工学	環境工学	情報工学	流体工学	熱工学	機械加工	計測制御工学	ロボット工学										
開講年次	必修/選択	授業科目名	開講期	単位数	教授	教授	教授	教授	助教授	助教授	講師	助手	助手	助教授	助教授	講師	助手	教授	講師									
1	必修科目	コンピュータ基礎	前期	1																								
1	必修科目	測量学Ⅰ	通年	2																								
1	必修科目	工学基礎Ⅰ	前期	1																								
1	必修科目	測量実習Ⅰ	通年	4																								
2	必修科目	数学演習	後期	1																								
2	必修科目	情報処理Ⅰ	通年	2																								
2	必修科目	測量学Ⅱ	通年	2																								
2	必修科目	製図基礎	前期	1																								
2	必修科目	建設材料	通年	2																								
2	必修科目	測量実習Ⅱ	通年	2																								
2	必修科目	コンピュータ設計	通年	2																								
3	必修科目	システム工学	前期	1																								
3	必修科目	構造力学Ⅰ	通年	2																								
3	必修科目	水理学Ⅰ	通年	2																								
3	必修科目	地盤工学Ⅰ	通年	2																								
3	必修科目	工学基礎Ⅱ	前期	1																								
3	必修科目	工学基礎Ⅲ	後期	1																								
3	必修科目	施工管理学Ⅰ	通年	2																								
3	必修科目	工学実験Ⅰ	通年	4																								
4	必修科目	応用数学Ⅰ	前期	2																								
4	必修科目	応用微分方程式	後期	2																								
4	必修科目	物理学概論	通年	2																								
4	必修科目	情報処理Ⅱ	通年	2																								
4	必修科目	構造力学Ⅱ	通年	2																								
4	必修科目	水理学Ⅱ	通年	2																								
4	必修科目	地盤工学Ⅱ	通年	2																								
4	必修科目	鋼構造Ⅰ	通年	2																								
4	必修科目	コンクリート構造Ⅰ	通年	2																								
4	必修科目	計画学	通年	2																								
4	必修科目	工学演習	後期	1																								
4	必修科目	構造設計Ⅰ	通年	2																								
4	必修科目	工学実験Ⅱ	通年	4																								
5	必修科目	応用数学演習	前期	1																								
5	必修科目	工業英語	通年	2																								
5	必修科目	構造力学Ⅲ	前期	1																								
5	必修科目	衛生工学	前期	1																								
5	必修科目	構造設計Ⅱ	前期	1																								
5	必修科目	工学実験Ⅲ	前期	2																								
5	必修科目	卒業研究	通年	6																								
5	選択科目	測量学特論	後期	1																								
5	選択科目	岩盤工学	前期	1																								
5	選択科目	鋼構造Ⅱ	前期	1																								
5	選択科目	都市計画	後期	1																								
5	選択科目	コンクリート構造Ⅱ	前期	1																								
5	選択科目	建設法規	後期	1																								
5	選択科目	道路工学	前期	1																								
5	選択科目	鉄道工学	後期	1																								
5	選択科目	河川工学	前期	1																								
5	選択科目	海岸工学	後期	1																								
5	選択科目	施工管理学Ⅱ	後期	1																								
5	選択科目	防災工学	後期	1																								
5	選択科目	計測工学	前期	1																								
5	選択科目	構造力学Ⅳ	後期	1																								
5	選択科目	ロボット工学	後期	1																								
5	選択科目	公共経済学	前期	1																								
5	選択科目	環境工学	後期	1																								
5	選択科目	景観工学	後期	1																								

担当科目数

9 8 7 8 8 7 5 10 8 5 5 2 2 1 1 1 1 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1

(出典 平成17年度教育課程表及びシラバスより作成)

資料 3-1-②-2

平成 17 年度授業科目担当教員一覧 (専門学科) (続き)
(建築学科)

建築学科				専任											他学科			非常勤																
				坂戸	田坂	八木	吉村	渡邊	大塚	工藤	中川	平石	荘所	武貞	濱田	松下	藤原	花田	宮崎	山口	岡本	志柿	沼田	寺岡	森崎	宮西	南出	久留主	谷本	前川	寒川	野崎	上田	
氏名				省三	誠一	雅夫	公男	宏	毅彦	和美	肇	年弘	直哉	健二	幸弘	通紀	誠之	治行	みよし	晃壽	陽	敦啓	巨	宏治	輝行	悠司	和延	晃児	敏和	容洋	勝彦	隆一	信也	
専門分野				建築計画学	建築構造学	都市計画	建築意匠	建築歴史	地域計画	建築設計	耐震工学	環境工学	木質構造	建築構造物の実施設計	分散アルゴリズム	流体工学	熱工学	機械加工																
開講年次	必修/選択	授業科目名	開講期	単位数	教授	教授	教授	教授	助教授	講師	講師	助手	助手	助教	助教	講師	助手																	
1	必修科目	情報基礎 I	前期	1										○																				
1	必修科目	造形	通年	4								○								○	○													
1	必修科目	建築一般構造	後期	1		○																												
1	必修科目	建築設計演習 I	通年	2				○																										
2	必修科目	情報処理 I	前期	1										○																				
2	必修科目	建築意匠	通年	3		○														○														
2	必修科目	建築構造力学 I	通年	2						○		○																						
2	必修科目	建築設計演習 II	通年	3	○				○																									
2	必修科目	建築史 I	後期	1				○																										
3	必修科目	建築構造力学 II	通年	2		○						○																						
3	必修科目	建築材料	前期	1			○														○													
3	必修科目	建築計画 I	通年	2			○														○													
3	必修科目	建築設計演習 III	通年	6					○	○													○											
3	必修科目	建築環境工学 I	通年	2								○																						
3	必修科目	図学 I	前期	1							○		○																					
3	必修科目	図学 II	後期	1						○																								
4	必修科目	応用数学 I	前期	2											○																			
4	必修科目	応用微分方程式	後期	2											○																			
4	必修科目	物理学概論	前期	2												○	○																	
4	必修科目	建築情報デザイン I	前期	1						○		○																						
4	必修科目	建築情報デザイン II	後期	1			○																											
4	必修科目	建築構造力学 III	通年	2						○		○																						
4	必修科目	建築工学実験	通年	2		○							○																					
4	必修科目	鉄筋コンクリート構造	通年	2		○																												
4	必修科目	鋼構造	通年	2								○																						
4	必修科目	建築計画 II	通年	2	○																		○	○										
4	必修科目	建築設計演習 IV	通年	6		○				○														○	○									
4	必修科目	建築環境工学 II	通年	2								○																						
4	必修科目	建築法規	前期	1																				○										
4	選択科目	建築史 II	前期	1				○																										
4	選択科目	建築史 III	後期	1				○																										
4	選択科目	建築インターンシップ	通年	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
5	必修科目	土質基礎構造	通年	2																							○							
5	必修科目	建築設備	通年	2																							○	○						
5	必修科目	建築生産	通年	2																								○						
5	必修科目	卒業研究	通年	8																														
5	選択科目	PC構造	前期	1																														
5	選択科目	建築構造特論	前期	1								○																						
5	選択科目	建築構造演習 I	前期	2		○							○																					
5	選択科目	建築構造演習 II	後期	1								○		○																				
5	選択科目	都市地域計画	通年	2						○																						○		
5	選択科目	建築計画 III	通年	2		○				○																						○		
5	選択科目	建築設計演習 V	後期	3	○																													
5	選択科目	建築学演習	前期	3			○																											

担当科目数 4 5 5 5 5 4 6 7 5 4 5 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

(出典 平成17年度教育課程表及びシラバスより作成)

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科は、機械・電子システム工学専攻と建築・都市システム工学専攻の2専攻を有し、平成8年4月に設置された。専攻科は平成15年度にJABEE認定を受けた4年課程の「共生システム工学」教育プログラムの後半2年間を構成することから、本校の教育目標に適合すると共に、更に詳細な学習・教育目標（(A-1)から(H-3)まで）を設定している（資料3-1-③-1）。これらの教育目標を達成するため、専攻科では一般教養科目、専門共通科目、専門展開科目等を配備し、より高度で実践的な技術者教育を施している（別添資料3-1-③-2）。

また、専攻科担当教員は博士の学位を有する講師以上の専任教員43名（講師以上の全教員の73%）を中心に、適宜非常勤講師を加え、担当授業科目数の均衡化に配慮しつつ、各教員の専門分野との緊密性を考慮して、これらの教育目標を十分に達成するような教員配置を実現している（資料3-1-③-3）。

資料3-1-③-1

学習・教育目標

(A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身

- (A-1) 自然や社会との共生について配慮できる。
- (A-2) 教養を高める努力ができる。
- (A-3) 心身の健康保持の大切さを学び実践できる。

(B) 国際性と指導力

- (B-1) 複数の外国語と文化について学習し、国際性を養う。
- (B-2) 地球的視野で共生に配慮して、異文化への対応ができる。
- (B-3) グループワークに積極的に取り組み、指導力を養う。

(C) 技術者倫理

- (C-1) 「もの」や「空間」を生み出す専門的職業人として技術者の責任を認識し、自然や社会に及ぼす技術の影響について理解できる。
- (C-2) 専門分野の学会の倫理条項について理解し、説明できる。

(D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力

- (D-1) 微分積分学、線形代数学、確率統計、数値解析などの数学および物理、化学、生命科学、地球物理、環境科学などの自然科学の基礎知識を修得し、それらを用いた問題解決能力を養う。
- (D-2) 設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術などの基礎工学に関する知識と能力を養う。
- (D-3) 卒業研究や専攻科特別研究を通して、研究・学習状況の把握や記録を習慣づけ、自主的・継続的な学

習能力を養う。

(E) コミュニケーション能力

- (E-1) 日本語による適切な文章表現、口頭発表および討論ができる。
- (E-2) 英語による技術論文の読解力、プレゼンテーションの基礎能力を有する。
- (E-3) 日本語による技術論文および英語によるアブストラクトが書ける。

(F) 柔軟かつ創造的な設計能力

- (F-1) 専門分野の知識や技術を用いて、課題に適応する具体的なシステムを設計できる。
- (F-2) 「ものづくり」を体験的に学習し、柔軟かつ創造的な発想ができる。

(G) 実践的な問題解決能力

- (G-1) 基礎的な実験技術を修得し、実験結果を種々の方法で解析できる。
- (G-2) インターンシップや専攻科特別研究を通して、理論と実現象との相違や問題点を発見・抽出し、問題を解決する能力を養う。

(H) 多次元的なシステム思考

- (H-1) 主専門分野の知識と技術を深く学び、システム思考ができる。
- (H-2) 共通的工学関連分野の幅広い基礎的知識を学習し、多次元的な思考力を養う。
- (H-3) 他の専門分野についても積極的に学習し、複眼的視野を養う。

(出典 学生生活のてびき)

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教員は、専門学科49名（機械工学科13名、電気情報工学科14名、都市システム工学科11名、建築学科11名）及び一般科目18名の計67名より構成されている。教員の年齢構成は学科により幾分異なるが、20歳台から60歳台までの年齢層別教員数は、20歳台がかなり少ないものの、各年齢層に渡って概ね均等に分布している。また、教員全体の平均年齢は47歳であり、各学科の教員の平均年齢もこれと大差ない（資料3-1-④-1）。本校では教員採用に際しては教員募集項目に年齢基準を記載するなどして、年齢分布に配慮した募集が行われている。男女別教員数では、全教員における女性教員数（4名）の割合は6%と低いが、一般科目では18名中3名（17%）となっている（資料3-1-④-1）。女性教員の職位別人数は、教授1名、助教授1名、講師2名であり、不均衡は見られない。

本校着任以前に教育経歴あるいは企業経歴を有する教員の割合は、全体で70%であり、各学科においても60%を超えている（資料3-1-④-1）。このように、いずれの学科においても過半の教員が本校着任以前に教育経歴あるいは企業経歴を持ち、それを本校での実践的な教育に生かしている。外国人教員については、平成15年度に英語担当の専任教員1名を公募採用し、学生の国際性の向上を図っている。なお、非常勤講師も含む全教員の氏名、年齢、学位、経歴等に関する一覧表は訪問調査時に提示する。

博士の学位（以下「学位」という。）を有する専任教員数は全体の69%であり、講師以上では73%に上る（資料3-1-④-1）。高専の教員は学生の教育や生活指導などに多くの時間が費やされるため、着任後に学位を取得するのは容易ではない。このため、専門学科では既に学位を有すること（講師以上）、それが望ましいこと（助手）を公募要項に明記して教員募集を行っている。なお、学位取得のため社会人ドクターコース制度を活用した事例が2件あり、その際には校務分担を軽減するなどの配慮がなされている。

教員評価制度は、教員による自己評価、学生による教員評価、教員相互評価などを毎年実施して最優秀教員を選出し、表彰している（資料3-1-④-2）。

資料 3 - 1 - ④ - 1

平成 17 年度専任教員構成表

平成17年度 専任教員構成表

学科名	年齢層別教員数 (最下行は各年齢層別教員数の全教員数に対する割合(%))						男女別教員数		博士号取得者						経験別教員数			
	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	平均年齢(歳)	男	女	全教員			講師以上			教育経験有り	実務経験有り	教育or実務経験有りの割合(%)	教育or実務経験有りの割合(%)
									教員数	博士号取得者数	取得率(%)	教員数	博士号取得者数	取得率(%)				
機械工学科	3	4	3	3	0	50	13	0	13	9	69.2%	11	9	81.8%	5	7	9	69.2%
電気情報工学科	2	3	5	3	1	46	14	0	14	13	92.9%	12	12	100%	5	5	9	64.3%
都市システム工学科	3	3	2	3	0	48	11	0	11	10	90.9%	9	9	100%	3	5	8	72.7%
建築学科	2	3	3	2	1	47	10	1	11	7	63.6%	9	6	66.7%	4	5	8	72.7%
(専門学科全体)	10	13	13	11	2	48	48	1	49	39	79.6%	41	36	87.8%	17	22	34	69.4%
一般科目	2	3	7	6	0	44	14	3	18	7	38.9%	18	7	38.9%	13	2	13	72.2%
全 体	12	16	20	17	2	47	62	4	67	46	68.7%	59	43	72.9%	30	24	47	70.1%
	17.9%	23.9%	29.9%	25.4%	3.0%													

(出典 庶務課人事係資料)

資料 3 - 1 - ④ - 2

教職員表彰要項

(趣旨)

第 1 条 教職員（非常勤職員を除く。）の表彰については、独立行政法人国立高等専門学校機構表彰規則（以下「表彰規則」という。）に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

(本校以外の在職期間の通算)

第 2 条 表彰規則第 2 条第 2 項の規定により、国立大学法人等の職員としての在職期間を通算する場合は、次の各号に定める期間を限度とする。

(1) 表彰規則第 2 条第 1 項第 1 号及び同項第 2 号イの場合 10 年

(2) 表彰規則第 2 条第 1 項第 2 号ロの場合 15 年

(表彰)

第 3 条 表彰は、校長が別記様式による表彰状を授与することにより行い、あわせて、副賞（表彰規則第 2 条第 1 項にあつては記念品）を贈呈する。

附 則（平成 16.3.17）

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

教員組織の活動を活性化するため、教員募集においては公募制を採用し、教員選考規則に基づく選考体制を整備している。この結果として、教員年齢構成の均衡化や性別による職位の均衡等についても配慮した選考が行われている。また、質の高い実践的な教育を施すため、教育経験や企業経験を重視した教員選考を行うとともに、博士の学位取得者数を高める努力を行っている。国際性を高める観点から、外国人専任教員を採用している。優秀教員評価制度が確立され、制度に基づく表彰を毎年実施している。

以上のことから、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点 3 - 2 - ①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点到係る状況)

教員の採用や昇格の手続きは、教員選考規則（資料 3 - 2 - ① - 1）で定められており、教員選考委員会が選考にあたる。

教員の採用は、原則として公募によって行っている（資料 3 - 2 - ① - 2）。各学科において、必要な教員の専門分野、経験、年齢などを検討し、学科長が選考委員会に報告する。選考委員会はこの報告をもとに、高等専門学校設置基準も考慮して選考方針、公募要領を決定する。全国の大学、高等専門学校、企業等に広く公募するほか、学会誌、研究者人材データベース、本校ホームページでも公

募している。選考に際しては書類審査により原則として3名以上の面接候補者を挙げ、面接審査を経て選考委員会が採用者を決定している。

教員の昇格に際しては、選考委員会は候補者の教員選考個人調書等（資料3-2-①-3）による書類審査でその教育、研究活動実績等を評価し、設置基準も考慮して面接審査実施の可否を決定する。そののち選考委員会による候補者の面接審査を経て、委員の投票により昇格の可否を決定している。

なお、非常勤講師の採用に当たっても、非常勤講師任用に関する基準（資料3-2-①-4）を定めており、これに基づき教員選考委員会が任用を決定している。

資料3-2-①-1

教 員 選 考 規 則

（目的）

第1条 この規則は、教員の選考に関する事項を定めることを目的とする。

（教員選考委員会）

第2条 教員を採用、昇任する場合、候補者の選考を行うため、校長は、教員選考委員会（以下「選考委員会」という）を開催する。

（選考委員会の構成）

第3条 選考委員会は次の者により構成する。

- （1）校長
- （2）副校長
- （3）各学科長及び一般科目長（以下「学科長」という。）
- （4）選考を行おうとする学科又は一般科目（以下「学科」という。）の教授1名（昇任及び非常勤講師の選考の場合を除く。）
- （5）その他校長が必要と認めた者

2 前項第4号及び第5号の委員は、人事案件ごとに、校長が指名する。

3 校長は委員長となり、選考委員会を招集する。

（選考委員会の議事及び議決）

第4条 選考委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことはできない。

2 選考委員会の議決は、出席委員の3分の2以上の賛成による。

（選考方針等の決定）

第5条 学科長は、欠員補充のため教員を選考する必要があるときは、各学科において、選考方針（公募、学内昇任等）、専攻分野等を検討し、その結果を校長に報告する。

2 校長は必要と認めた場合、選考委員会で審議の上、選考方針及び公募要領等を決定する。

3 公募を行う場合は、校長名で広い範囲にわたって、候補者を求めるものとする。

（採用の場合の手続き）

第6条 採用の手続きは次のとおりとする。

- （1）選考は、書類審査及び面接審査等により実施する。
- （2）学科長は、学科長は、各学科において応募者の書類審査を実施し、その結果を選考委員会に報告する。
- （3）選考委員会は、書類審査により、原則として3名以上面接候補者を選考する。
- （4）書類審査により選考された者に、面接審査を実施する。

(5) 面接審査は、校長、副校長、当該学科の学科長、当該学科以外の学科長 1 名及び当該学科の教授 1 名により実施する。

(6) 選考委員会は、面接審査の結果、採用候補者を決定する。

(7) 採用候補者が得られない場合は、改めて公募を実施する。

(学内昇任の場合の手続き)

第 7 条 学内昇任の手続きは次のとおりとする。

(1) 選考は、書類審査及び面接審査等により実施する。

(2) 学科長は、選考委員会において、学科における昇任の方針、候補者の適格性等について報告する。

(3) 選考委員会は、書類審査を実施し、投票により面接審査実施の可否を決定する。

(4) 面接審査は、校長、副校長及び学科長により実施する。

(5) 面接審査の結果、投票により昇任の可否を決定する。

(非常勤の講師の選考)

第 8 条 本校で初めて講義等を担当することとなる非常勤講師の選考は、選考委員会において書類審査を実施する。

(その他)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、選考委員会で審議の上、校長が決定する。

附 則 (平成 16.3.17)

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

資料 3 - 2 - ① - 2

教員募集書類 (機械工学科)

明高専人第 238 号

平成 17 年 5 月 24 日

関係大学 (学部) 長

関係高等専門学校長 殿

関係機関の長

明石工業高等専門学校長

高 久 晴

教員の公募について (依頼)

時下 益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本校では下記の要領で教員を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者へのご周知方よろしくお願い申し上げます。

記

1. 職名・人員 講師 1 名

2. 所 属 機械工学科

3. 専門分野 計測制御

4. 担当科目等 自動制御、計測工学、情報処理、工学実験他

5. 採用予定日 平成 18 年 4 月 1 日

6. 応募資格 (1) 機械系の学科及び大学院を卒業し、博士の学位を有する方

	学位取得見込のある方
	(2) 高等専門学校の教育、学術研究に強い意欲のあるもので学生指導に理解をもち、積極的に取り組める者
	(3) 採用時年齢が28～32歳程度の方
7. 提出書類	(1) 履歴書（市販用紙に本人自筆、写真貼付、技術士資格を有する場合は取得年月日、番号を記すこと）
	(2) 研究業績一覧（学会等の口頭発表を含む）及び著書（概要）
	(3) 主要論文の別刷り又はコピー
	(4) 教育・指導歴（担当した講義内容等）
	(5) 着任後の教育・学生指導についての抱負（A4用紙1,200字程度）
	(6) 研究経過の概要及び今後の研究計画（A4用紙1,200字程度）
	(7) 推薦書（推薦書が無い場合には、応募者に関して所見を伺える方の氏名の所属、氏名及び連絡先、及び応募者との関係を記すこと）
8. 応募締切日	平成17年9月30日（金）必着
9. 選考方法	第1次選考 書類審査 第2次選考 第1次選考合格者を対象に面接審査 (面接に伴う旅費、宿泊費等は応募者負担とします)
10. 書類提出先	〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3 明石工業高等専門学校 庶務課人事係 (封筒に「機械工学科教員応募書類」と朱書し、書留で郵送のこと)
11. 問い合わせ先	明石工業高等専門学校 機械工学科科長 丸茂 榮佑 TEL : 078-946-6193、FAX : 078-946-6028 E-mail : marumo@akashi.ac.jp
	(出典 庶務課人事係資料)

資料 3-2-①-3

教員選考個人調書（一部抜粋）

(記入例)		〇〇学科 教授			
昇任させようとする職	〇〇学科 教授				
ふりがな 氏 名	(昭和 年 月 日 男・女 歳)	現住所			
現 職	〇〇学科 助教授				
最 終 学 歴	昭和 年 月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇課程 (〇〇学専攻)	修了 (単位取得退学)		
学 位・称 号	昭和 年 月	博士・修士 (工学) (〇〇大学)			
担当授業科目	授業科目名	学 年	単 位	担当教員数	昇任前と担当科目等に委員がある場合は、その内容を記入。 〇〇学論 2 単位 (別添付変更の場合も含む)
	〇〇学論	3	2	1	
	〇〇学論	4	2	2	
	〇〇高度	5	4	4	
	〇〇学論	専攻科	2	2	
*卒業研究、専攻科特別研究は記入しない。					
資格免許状	昭和 年 月	教員免許等			
教歴及び職歴	昭和 年 月	〇〇会社 研究員			
	昭和 年 月 平成 年 月	明石工業高等専門学校 講師 同 助教授			
教歴及び職歴の年数	教 歴 20 年 月 (.) 職 歴 4 年 月 (.) *非常勤は含まない	計	24 年 月 (.)		

氏 名	一般科目	専門科目	専攻科	研究指導学生数
	平成12年度 単位 7	1 単位	1 単位	5 人
	平成13年度 単位 7	1 単位	1 単位	5 人
授業担当状況等	* 最近5年間について記入。 単位数は、一つの授業を複数で担当している場合は、担当分を換算する。 (授業の内容・方法・改善取り組み状況等)			
教育活動	「産業教育」「工学教育」への教育に関する研究論文発表			
	出の高等学校等への教育に関する研究論文発表			
	院内記事、他の機関誌等への教育に関する研究論文発表 (教育研究会への出席、発表状況等)			
(公開講座、地域主催事業への参加等地域貢献状況)				
学生生活	学級担任歴	〇年担任 (〇年度、〇年度) 〇年担任 (〇年度、〇年度)		
	(クラブ顧問としての活動状況、高専祭等学内行事における指導・協力状況等)			
	(厚生指導取り組み状況)			
指導状況	(進路指導取り組み状況)			

資料 3-2-①-4

非常勤講師任用に関する基準

(平成10年2月26日校長決裁)

1. 明石工業高等専門学校における非常勤職員の任用については、法令規則等で定めるもののほか、この基準に定めるところによる。
2. この基準にいう非常勤職員とは、常勤職員の1週間の勤務時間の四分の三を超えない範囲で勤務する職員をいう。
3. 請負その他外部委託の可能な業務又は機械化の可能な業務には、原則として非常勤職員の任用は行わないものとする。
4. 新たに非常勤職員として採用する者の年齢は、事務、技術に関する職務及び技能に関する職務を補佐する職員にあっては、採用日現在満63歳未満の者、労務作業に従事する職員にあっては、採用日現在満66歳未満の者とする。
5. 任期満了後任用を更新する者及び一定期間をおいて再び採用する者の年齢は、任用更新時日等現在において満67歳未満の者とする。
6. 特別な事情により、この基準により難しい場合は、事務部長及び庶務課長と協議の上、校長が決定する。

附 則

- 1 この基準は、平成 10 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 この基準実施日現在非常勤職員として在職する満 67 歳以上の者については、この基準にかかわらず平成 10 年度中は任用することができるものとする。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

採用や昇格に関する手続きの規定は明確に定められている。公募に際しては、高等専門学校設置基準に示された職位に応じた応募資格を公募文書ではっきりと謳っている。書類審査、面接審査の手続きは適切に定められており、また審査に際しては、高等専門学校設置基準に定められた教員資格を基準として、独自に候補者の教育指導能力の評価も行っており、適切に運用がなされている。

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

観点 3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動を評価する組織として、「教育研究活動評価等委員会」(資料 3-2-②-1)が設置されており、評価事項の検討、評価結果の活用が検討されている。教育活動に関する自己評価は、「教育業績等自己評価」(資料 3-2-②-2)により実施されている。この結果は、無記名で順位付けされた結果一覧(資料 3-2-②-3)に、各教員がどの順位に位置しているのかが分かるように通知される。

自己評価以外にも、教員が相互に評価する「教員相互評価」(資料 3-2-②-4, 資料 3-2-②-5)、学生による評価「学生による教員の評価」(資料 3-2-②-6, 資料 3-2-②-7, 資料 3-2-②-8)などの多面的な評価システムが整備されている。

授業評価アンケートは、学生による授業アンケートが年に 2 回行われ、この評価結果は学生も閲覧できる学内 LAN 上で公開されている(資料 3-2-②-9)。

資料 3 - 2 - ② - 1

教育研究活動評価等委員会規程

(趣旨)

第 1 条 教員の教育活動及び研究活動の評価及びその運用に関する事項を検討するため、教育研究活動評価等委員会（以下「委員会」という）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長及び校長補佐
- (3) その他校長の指名した者若干名

(委員長)

第 3 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副校長がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第 4 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(作業部会)

第 5 条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。

2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(事務)

第 6 条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規程は、平成 16 年 1 月 10 日から施行する。

附 則 (17. 3. 2)

この規程は、平成 17 年 3 月 2 日から施行する。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

資料3-2-②-2

平成17年度 教員の教育業績等自己評価(一部抜粋)

教員の教育業績等自己評価(平成17年度)

H. 17. 5. 11

A 授業等の担当

【59/52/40/33】

1. 授業について [8]

(1) 週あたり授業単位時間はどれだけですか?最近5か年の平均値で教えてください。

(1 単位時間; 45分。実験、実習、課題研究を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。複数教官で担当する場合、実働時間とする。)

1) 15単位時間以上 : [3点]

2) 12~14時間 : [2点]

3) 11時間以下 : [1点]

(2) 卒業研究, 専攻科特別研究を担当していますか?

1) 上記の2つを担当している : [2点]

2) 上記の1つを担当している : [1点]

(3) 正規の授業のほかに補習授業を行っていますか?(不定期に実施しているものを含む。)

1) 進学・就職希望者、資格試験受験者および達成度の低い学生に実施している : [3点]

2) 進学・就職希望者および資格試験受験者について実施している : [2点]

3) 達成度の低い学生についてのみ実施している : [2点]

4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているため、補習授業は行っていない : [1点]

5) 補習授業はまったく考えていない : [0点]

2. 授業内容・方法 [12]

(1) シラバスは有効に利用していますか?

1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義に利用している : [3点]

2) シラバスにおおむね沿った授業にしている : [2点]

3) シラバスはおよその目安としている : [1点]

(出典 庶務課資料)

資料3-2-②-3

平成17年度 自己評価集計結果

	A	B	C	D	E	F	合計	総得点	得点率
順位	授業等の 担当	FD活動	学生生活 指導	経歴関係	研究活動	地域貢献	合計	総得点	得点率
1	45	10	27	26	17	25	150	184	81.5%
2	29	18	29	25	15	13	129	165	78.2%
3	51	11	26	21	21	15	145	191	75.9%
4	44	14	26	26	14	19	143	191	74.9%
5	50	9	30	10	18	20	137	191	71.7%
6	45	6	21	24	15	17	128	184	69.6%
7	39	10	29	23	11	15	127	184	69.0%
8	43	10	26	24	14	14	131	191	68.6%
9	35	15	26	14	15	12	117	172	68.0%
10	43	7	20	23	15	17	125	184	67.9%
11	44	10	24	22	17	8	125	184	67.9%
12	28	5	33	21	10	15	112	165	67.9%
13	29	10	28	19	15	10	111	165	67.3%
14	51	20	24	8	15	10	128	191	67.0%
15	42	6	28	13	14	25	128	191	67.0%
16	43	3	32	14	15	16	123	184	66.8%
17	47	12	29	16	13	10	127	191	66.5%
18	44	6	25	13	12	25	125	191	65.4%
19	26	6	24	22	17	25	120	184	65.2%
20	48	10	27	15	15	7	122	191	63.9%
21	41	7	21	11	17	19	116	184	63.0%
22	35	7	26	24	15	13	120	191	62.8%
23	53	3	21	4	25	12	118	191	61.8%
24	22	10	22	23	4	25	106	172	61.6%
25	34	8	19	26	15	9	111	184	60.3%
26	43	11	23	21	6	11	115	191	60.2%
27	30	10	18	23	18	15	114	191	59.7%
28	25	2	33	25	10	2	97	165	58.8%
29	37	6	18	19	18	10	108	184	58.7%
30	44	5	28	9	18	6	110	191	57.6%
31	44	5	17	18	15	11	110	191	57.6%
32	41	5	25	21	8	6	106	191	55.5%
33	42	1	25	16	10	10	104	191	54.5%
34	26	4	18	7	15	19	89	165	53.9%
35	46	7	33	13	2	2	103	191	53.9%
36	49	4	23	22	1	3	102	191	53.4%
37	46	4	25	8	13	5	101	191	52.9%
38	36	9	20	25	1	10	101	191	52.9%
39	43	7	22	17	4	5	98	191	51.3%
40	43	1	21	8	15	10	98	191	51.3%
41	40	5	26	20	1	6	98	191	51.3%
42	35	3	20	20	6	10	94	184	51.1%
43	44	0	19	9	2	20	94	184	51.1%
44	38	8	17	23	6	5	97	191	50.8%
45	39	7	15	15	15	6	97	191	50.8%
46	43	1	21	2	15	9	91	184	49.5%
47	26	4	25	24	2	0	81	165	49.1%
48	29	11	21	6	12	0	79	165	47.9%
49	28	7	23	15	2	2	77	165	46.7%
50	40	2	14	11.8	12	8	87.8	191	46.0%
51	30	4	29	7	0	2	72	165	43.6%
52	31	7	24	5	6	0	73	172	42.4%
53	30	1	28	6	7	1	73	172	42.4%
54	43	1	23	10	3	0	80	191	41.9%
55	31	6	16	10	7	2	72	172	41.9%
56	33	6	10	6	14	8	77	184	41.8%
57	23	5	20	13	3	4	68	165	41.2%
58	28	1	22	5	3	3	62	165	37.6%
59	28	7	16	7	9	2	69	191	36.1%
60	28	1	20	2	6	0	57	165	34.5%
61	32	0	11	7	2	5	57	184	31.0%
62	38	0	10	3.2	0	0	51.2	191	26.8%

(出典 庶務課庶務係資料)

資料 3 - 2 - ② - 4

教員相互評価

教員相互評価
記名用紙

3名連記

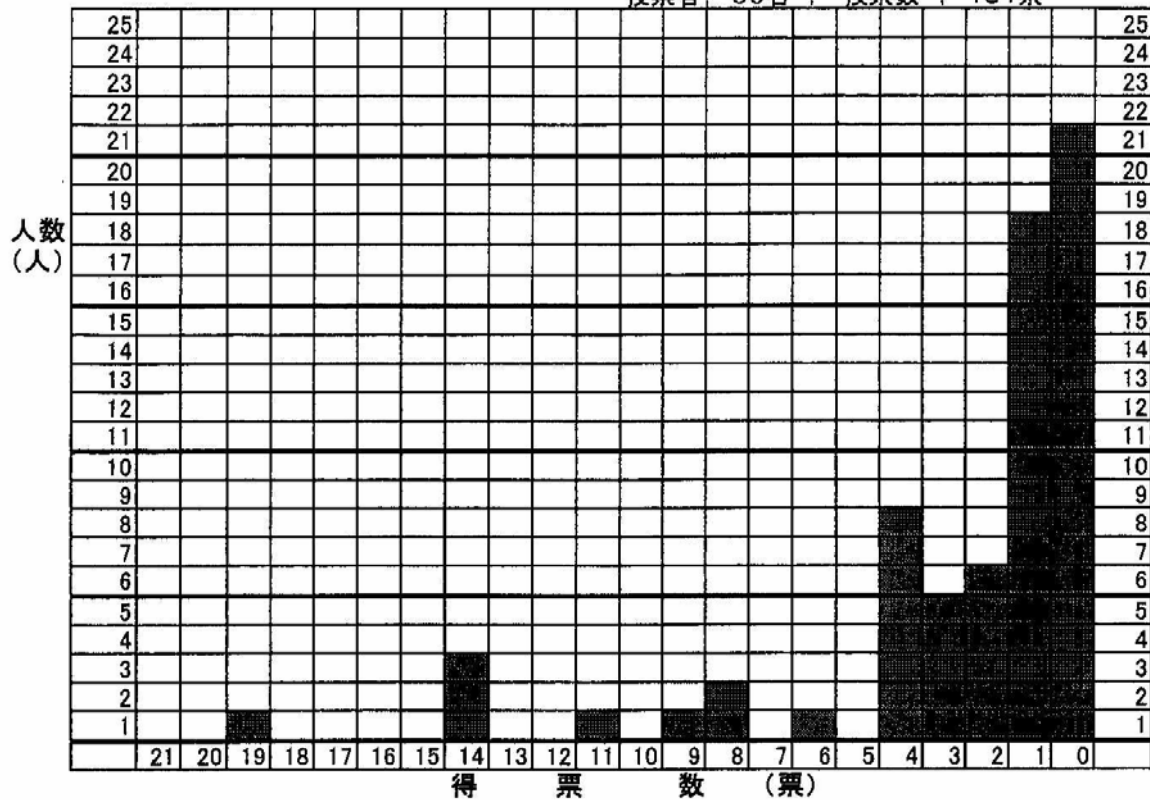
(出典 庶務課人事係資料)

資料3-2-②-5

平成16年度 教員相互評価結果

教員の相互評価

投票者：66名，投票数：181票



(出典 庶務課人事係資料)

資料3-2-②-6

学生による教員の評価について

平成16年10月25日

3, 4, 5年の学生各位

校長 高 久 晴

学生による教員の評価について（お願い）

高専における教育研究の充実のための施策の一環として、数年前から教員の研究及び教育業績に対する文部大臣・文部科学大臣表彰等（大臣表彰1名、国立高等専門学校協会会長賞5名、その他）が行われていました。平成14年度には本校の都市システム工学科の澤 孝平教授が会長賞を受賞しました。

今年度、全国の国立高専は独立行政法人国立高等専門学校機構となり、この表彰は引き続き国立高等専門学校教員顕彰（文部科学大臣賞1名、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞若干名、同奨励賞若干名）として、①教員による自己評価、②教員による相互評価、③学生による教員の評価 の総合評価に基づき候補者の選考が行われます。

ついては、学生各位による教員の評価にご協力をお願いします。

具体的には、下記の諸点を考慮して、自分の所属する学科の教員3名及び一般科目又は他学科の教員5名を連記してください。（同じ名前は書かない。無記名でよい。） なお、参考までに、対象となる専任教員の名簿を添付します。

評価にあたって参考にする諸点

- ・教育に熱心な先生
- ・分かりやすく教えてくれる先生
- ・勉強の意義を良く教えてくれる先生
- ・人生に夢を抱かせてくれる先生
- ・部・サークルの指導・生活指導に熱心な先生

(出典 学生課教務係資料)

資料3-2-②-7

学生による教員の評価（投票用紙）

学生による教員の評価 投票用紙

自分の属する学科の教員(3名)

一般科目の教員、又は他学科の教員(5名)

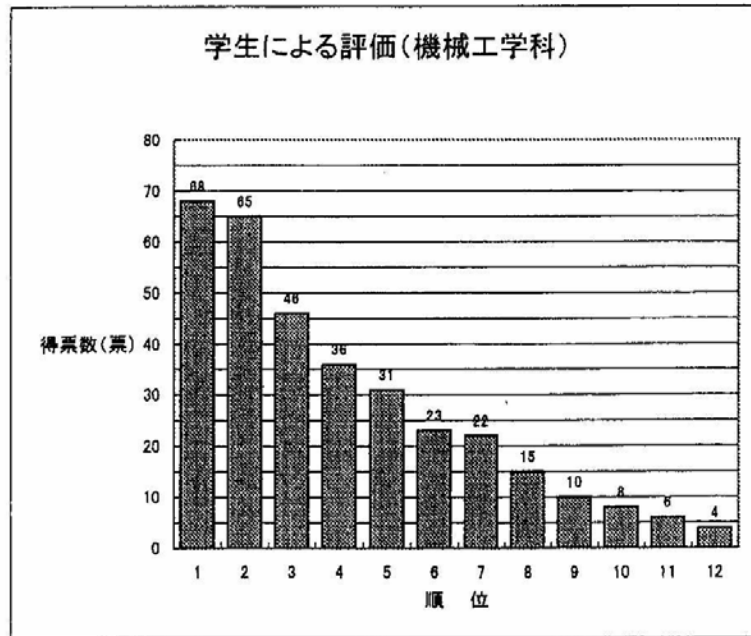
教 員 名 簿

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
一般科目	教授	大原 康昇	機械工学科	教授	前田 良昭	都市システム工学科	教授	澤 孝平
	教授	二宮 博		教授	能島 博人		教授	角田 忍
	教授	松下 幸一		教授	丸茂 榮佑		教授	大橋 健一
	教授	香川 勝俊		教授	境田 彰芳		教授	友久 誠司
	教授	濱野 正美		助教授	國峰 寛司		教授	横 和秀
	教授	倉光 利江		助教授	松下 通紀		助教授	神田 佳一
	教授	松田 安隆		助教授	森下 智博		助教授	石丸 和宏
	教授	善塔 正志		助教授	加藤 隆弘		講師	江口 忠臣
	助教授	長谷川 博史		講師	藤原 誠之		講師	越智 内士
	助教授	武内 将洋		講師	石橋 進		助手	桑原 義文
	助教授	松宮 篤		講師	関森 大介		助手	渡部 守義
	助教授	橋本 浩美		助手	花田 治行		教授	田坂 誠一
	助教授	前原 澄子		助手	本村 士郎		教授	谷本 祝紀
	講師	面田 康裕		教授	童子 雅俊		教授	渡邊 宏
	講師	高野 啓児		教授	中尾 睦彦		教授	吉村 公男
講師	後藤 太之	教授	藤野 達士	教授	坂戸 省三			
講師	大和 知史	教授	堤 保雄	教授	八木 雅夫			
講師	ジョン ネバラ	教授	中井 優一	助教授	大塚 殷彦			
		教授	石黒 富士雄	助教授	中島 康			
		助教授	大向 雅人	講師	平石 年弘			
		助教授	濱田 幸弘	助手	工藤 和美			
		助教授	細川 篤	助手	中川 肇			
		助教授	佐村 敏治					
		助教授	堀 桂太郎					
		助教授	宮本 行廣					
		助手	廣田 敦志					
		助手	橋本 博久					

(出典 学生課教務係資料)

資料 3 - 2 - ② - 8

学生による評価結果事例



(出典 学生課教務係資料)

資料 3 - 2 - ② - 9

学生による授業アンケート集計結果

(16年度) 学生による授業アンケート集計表

科目名: _____ クラス: _____ 教員名: _____

質問項目	評価					回答数	平均	ヒストグラム
	5	4	3	2	1			
問1 総合評価	4	20	15	1	0	40	3.68	
問2 説明の仕方・黒板の使い方	6	14	16	4	0	40	3.55	
問3 教科書や教材の選定	6	7	23	4	0	40	3.38	
問4 学生の理解度を確認していたか	8	8	24	0	0	40	3.60	
問5 授業に興味を持てるような工夫	8	19	13	0	0	40	3.88	
問6 シラバス通り行われたか	7	7	26	0	0	40	3.53	
問7 授業の目標を理解していたか	4	11	23	2	0	40	3.43	
問8 自分の目標を達成できたか	2	9	23	5	1	40	3.15	

問9 この授業の良かった点(学生の自由記述)

- 1 各情報のプリントが良かった。(日経ものづくり、新聞記事等)
- 2 中間試験期間中にテストがなく、平常の大テストが別の時期にあること。
- 3 平凡で良かった。
- 4 絵を多用するのが分かり易い
- 5 テストで頑張った分が点数になり、満点以上の点数の持ち越しになる。
- 6 興味を持てるように工夫されていた。
- 7 説明が具体的で分かり易い、詳しい説明
- 8 テスト後のビデオ鑑賞がよかった。
- 9
- 10

問10 この授業をもっと良くするために必要だと思うこと(学生の自由記述)

- 1 テストがしんどい。採点しやすい方式に、テストが終わると忘れてしまう。
- 2 テスト方式を変えるべき。知識の詰め込みになっている。
- 3 テストの時間を長くして欲しい。
- 4 テスト期間中にテストを入れるのを辞めて欲しい。
- 5 基本的に面白くなくだるかった。眠い。
- 6 黒板の字が薄く、読みづらい。誤字脱字が多い。重要単語は色を変えて欲しい。
- 7 進度が遅い。
- 8 授業中に資料を回すと、授業についていく暇がなく、読めない。
- 9 教科書を図が多いものを選んで欲しい。追加プリントが多い。
- 10 黒板に書く量が多いので、説明を十分に聞けない。教科書をもっと活用すべし。

【担当教員からの講評】

記述式のテストを実施しているので、不評はやはり多い。「知識の詰め込みになっている。」との意見もあるが、詰め込まないと役に立たない科目であるので、テストは頑張って覚えて頂きたい。今年度より教科書を変えたが、分野により図が不備なことが多いので、プリントを配布しているが、混乱している学生もいるようである。分野が変われば教科書をよく利用できる。
 実際の加工状態を見ないと分からないことが多いので、普段の授業から視覚教材を採り入れることができないかを思案中である。

(出典 学生課教務係資料)

(分析結果との根拠理由)

教員の教育活動を評価する委員会が設置され、教員は自己評価、教員による相互評価、学生による評価と多面的な評価を受けている。また、授業においても、学生による授業アンケートが実施され、評価を受けている。

以上のことから、教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する体制が整備され、実際に評価が行われている。

観点 3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の事務部は、庶務課、会計課及び学生課から構成されている。以上の部署のうち、教育課程の展開に直接的に関係するのは、学生課と支援センターである。これらの組織図を資料 3-3-①-1 に示す。庶務課の技術系職員(計 13 名、うち 1 名欠員)(以下「技術職員」という)は技術教育支援センター(以下「支援センター」という)に所属している(資料 3-3-①-2)。

学生課の事務分掌は、事務分掌規程(資料 3-3-①-3)に明文化されている。図書系には、司書あるいは専門的知識を有する者を配置している。学生課教務係では、4 名の職員が各々シラバス作成、成績管理、学生異動管理、履修管理等を分担して担当している。学生の授業出欠記録、定期試験の成績報告、シラバス作成などは学内 LAN を活用したオンラインシステムを構築して効率的な処理を行っている。

学生の実験・実習の技術的支援や教職員からの技術相談等を担当する技術職員が支援センターに配属されている。支援センターには、1 名の技術長と 3 名の班長を置き専門性(機械系、電気・情報系、都市・建築系)を考慮した適切な人員配置を行っている。資料 3-3-①-4 に、各学科等から提出される業務申請書に基づく業務申請一覧を示す。

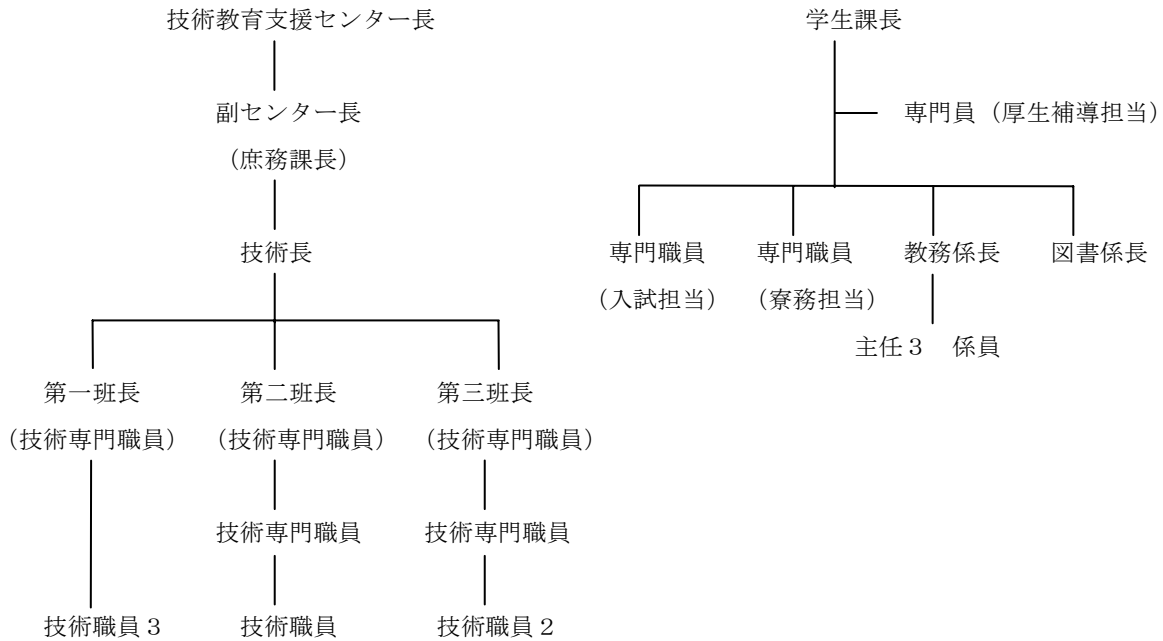
(分析結果とその根拠理由)

本校の事務部は、庶務、会計、学生の 3 課から構成され、教育課程の展開に必要な事務職員は学生課に配置されている。学生課教務係及び図書系には、授業、成績、異動、履修、学術情報等の教育支援業務を的確に実施するために、業務内容に基づく適切な人数の職員配置を行っている。一部の業務では、学内 LAN を活用したオンラインシステムを構築して処理の効率化を図っている。技術職員は、支援センターに属し、教育・研究に関する技術支援と専門的業務を行うために、専門性を考慮して適切に配置されている。

以上のことから、本校において編成された教育課程を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

資料 3-3-①-1

技術教育支援センター及び学生課の組織図



(出典 現状の組織をもとに作成)

資料 3-3-①-2

技術教育支援センター規則

(設置)

第 1 条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教室系技術職員の職務が、教育・研究の進展とともに、高度化・専門化してきていることに鑑み、本校の教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑に効率的に行うため、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 センターに、センター長、副センター長、技術長、技術専門職員及び技術職員を置く。

2 センターに、第 1 技術班、第 2 技術班、第 3 技術班を置く。

(業務)

第 3 条 センターは、本校の教育・研究の支援及び技術に関する次の業務を行う。

- (1) 学生の実験実習、演習及び卒業研究に関する技術指導
- (2) 全校を対象とした技術に関する業務
- (3) 共同研究等における技術相談、技術協力及び技術指導に関すること
- (4) センターの管理・運営に関すること
- (5) その他、センター長が必要と認めたもの

2 前条第 2 項に定める各班においては、当該各分野に関する専門技術業務及び技術開発並びに学生の技術指導を行う。

(センター長)

第4条 センター長は、本校の教授、助教授の中から校長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を統括する。

(副センター長)

第5条 副センター長は、庶務課長をもって充てる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(技術長)

第6条 技術長は、センター長及び副センター長を補佐し、センターの業務を掌理する。

(技術班長)

第7条 第2条第2項に定める各班に班長を置き、技術専門職員をもって充てる。

2 班長は、班の業務を掌理する。

(技術専門職員)

第8条 技術専門職員は、高度の専門技術に基づき、センター及び当該班に関する業務を行う。

(技術職員)

第9条 技術職員は、センター及び当該班に関する専門の業務を行う。

(センター委員会)

第10条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、センター委員会を置く。

2 センター委員会に関し、必要な事項については、別に定める。

(研修)

第11条 教室系技術職員の職務と責任の遂行に必要な知識、技術等を修得させ、能力、資質等を向上させることによつて、本校の教育・研究に寄与することを目的として、研修を行う。

2 研修の内容、方法等については、別に定める。

(その他)

第12条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

2 明石工業高等専門学校実習工場規程(平成5年3月18日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

資料 3 - 3 - ① - 3

明石工業高等専門学校事務分掌規程 (抜粋)

(学生課)

第4条 学生課に専門員(厚生補導担当)、専門職員(入試担当)、専門職員(寮務担当)並びに教務係及び図書係を置く。

2 専門員(厚生補導担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育に関する専門的事項に関すること。
- (2) 学生に対する奨学金、授業料等の減免・徴収猶予及び経済的援助に関すること。
- (3) 課外活動施設、福利厚生施設及び保健室の管理運営に関すること。
- (4) 学生の安全管理及び保健管理に関すること。
- (5) 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関すること。
- (6) 日本スポーツ振興センター「災害共済給付」の事務に関すること。
- (7) 学生の集会・掲示等に関すること。
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (9) 学生に対する職業指導及び就職あっせんに関すること。
- (10) 学生相談に関すること。
- (11) 学生の遺失物及び拾得物に関すること。
- (12) 学生主事及び学生課長印の管守に関すること。
- (13) 学生の厚生補導にかかる調査及び統計に関すること。
- (14) その他学生の厚生補導に関すること。

3 専門職員(入試担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 教育懇談会及び学校説明会等の学生募集に関すること。
- (2) 学生(外国人留学生を含む)の入学者の選抜に関すること。
- (3) 入学試験にかかる調査及び統計に関すること。
- (4) その他入学試験に関すること。

4 専門職員(寮務担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の入退寮に関すること。
- (2) 寮生の外出及び外泊に関すること。
- (3) 寮生に対する寄宿料の免除に関すること。
- (4) 学生寮における施設設備の維持保全及び環境整備に関すること。
- (5) 寮生の諸経費の経理に関すること。
- (6) 寮務主事印の管守に関すること。
- (7) 学生寮にかかる調査及び統計に関すること。
- (8) その他学生寮の管理運営に関すること。

5 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生に関する事務の総括並びに連絡調整に関すること。
- (2) 学生の入学、転科、休学、退学、転学、留学、除籍、卒業・修了等学籍に関すること。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
- (4) 学生の試験及び成績に関すること。
- (5) 学生の学業成績及びJABEEの記録、整理・保管に関すること。
- (6) 外国人留学生並びに研究生、科目等履修生及び聴講生に係る教務事務に関すること。
- (7) 学生の教務にかかる調査及び統計に関すること。
- (8) その他学生課の他係に属さない事項に関すること。

6 図書係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書の受入れに関すること。
- (2) 図書の購入計画に関すること。
- (3) 図書の分類に関すること。
- (4) 図書の目録作成に関すること。
- (5) 図書の保管及び書庫内の配架整理に関すること。
- (6) 図書の閲覧及び貸出しに関すること。
- (7) 図書及び図書館の利用についての指導に関すること。
- (8) 図書関係の調査及び統計に関すること。
- (9) その他図書館の管理運営に関すること。

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

資料 3 - 3 - ① - 4

平成 17 年度 業務申請一覧 (一部)

平成17年度 業務申請一覧

整理番号	名称	項目	期間	支援内容	部科課	申請者	前期		後期		人数	系	
							週・学年	時限	週・学年	時限			
1	AMeJ01	工作実習 I 1M	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	機械工学科	花田治行	月1	2	月1	3	6	
2	AMeJ02	工作実習 II 2M	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	機械工学科	花田治行	火2	1-2	木2	1-2	6	
3	AMeJ03	総合実習 3M	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	機械工学科	花田治行	木3	3-4	木3	3-4	6	
4	AMeJ04	物理学実験 4M	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	機械工学科	藤原誠之	水4	3-4			2	
5	AMeJ05	工学実験 I 4M	後期授業	RS	実験・実習・演習支援	機械工学科	丸茂榮佑			月4	1-2		
6	AMeS01	創発ゼミ 1ME森下	短期(1月以内)	MS	実験・実習・演習支援	機械工学科	森下智博						
7	AEJ01	プログラミング I	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	宮本行庸	水1	3	木1	2		
8	AEJ02	情報処理 3E	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	藤野達士	金3	3	火3	3	1	
9	AEJ01	電気情報工学実験 II	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	廣田敦志	木3	1-2	火3	1-2		
10	AEJ02	電気電子工学実験 I	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	廣田敦志	水4	1-2	金4	3-4		
11	AEJ03	電気電子工学実験 II	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	廣田敦志	火5	3-4				
12	AMeJ04	応用物理 II 4E	短期(1月以内)	MS	実験・実習・演習支援	機械工学科	藤原誠之						
13	AEJ03	電気情報工学実験 I	後期授業	RS	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	廣田敦志			木2	3-4		
14	AEJ04	コンピュータグラフィックス応用	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	宮本行庸	金5	2				
15	AEJ01	創発ゼミ 1ME藤野	後期授業	RS	実験・実習・演習支援	電気情報工学科	藤野達士			水S1	1-2	1	
16	BEJ01	進路情報 E	長期(3月以上)	LL	進路資料	電気情報工学科	藤野達士					2	
17	BEJM01	クライアントコンピュータ E	長期(3月以上)	LL	学科設備の整備	電気情報工学科	宮本行庸						
18	BEJM01	ファイルサーバ E	長期(3月以上)	LL	学科設備の整備	電気情報工学科	宮本行庸						
19	BEJM02	実験設備・備品管理 E	長期(3月以上)	LL	学科設備の整備	電気情報工学科	廣田敦志						
20	BEJM02	設備・備品管理 E	長期(3月以上)	LL	学科設備の整備	電気情報工学科	藤野達士					2	
21	BEJM03	太陽光発電 E	長期(3月以上)	LL	その他	電気情報工学科	堤 保雄					1	E系
22	CJsM01	情報化推進室 技術支援	長期(3月以上)	LL	学校施設整備	電気情報工学科	濱田幸弘						
23	ACJ01	測量実習 I 1C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	江口忠臣	火1	3-4	火1	3-4		
24	ACK01	特別研究 AC.C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援実験支援	都市システム工学科	澤 孝平	S2		S2			
25	ACJ02	測量実習 II 2C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	江口忠臣	月2	4	月2	3		
26	ACI01	コンピュータ設計 3C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	友久誠司	木3	2	火3	2		指定せず
27	ACJ02	工学実験 I 3C材料	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	角田 忍	木3	3-4	木3	3-4		
28	ACJ03	工学実験 II 4C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	澤 孝平	金4	3-4	金4	3-4		
29	ACI02	情報処理 II 4C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	大橋健一	火4	2	水4	2		
30	ACK01	卒業研究 5C	通年授業	RR	実験・実習・演習支援実験支援	都市システム工学科	友久誠司	5		5		2	
31	ACJ01	工学実験 II 4C	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	友久誠司	金5	3-4			4	
32	ACJ05	工学実験 III 5C衛生実験	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	神田佳一	金5	3-4			2	
33	ACJ06	工学実験 III 5C溶接	前期授業	RF	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	友久誠司	金5	3-4			4	M系
34	ACS01	創発ゼミナール 1AC檀	後期授業	RS	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	大橋健一			水1	1-2	2	
35	ACI03	情報処理 I 22C	後期授業	RS	実験・実習・演習支援	都市システム工学科	石丸和宏			金2	1	1	
36	ACJ07	応用物理 4C	短期(1月以内)	MS	実験・実習・演習支援	機械工学科	藤原誠之					3	
37	BCIM01	PCの維持管理 C	長期(3月以上)	LL	学科設備の整備	都市システム工学科	石丸和宏					1	指定せず
38	BCH01	土木学会講演会	短期(1週以内)	SS	講演会サポート	都市システム工学科	友久誠司					1	
39	AArJ01	RC構造 4A	通年授業	RR	実験・実習・演習支援	建築学科	田坂誠一	月4	4	月4	4	1	
40	AArK01	卒業研究 A中川	通年授業	RR	実験支援	建築学科	中川 肇	5		5		1	

年間申請総数 107 件 (平成 17 年 5 月現在)

(出典 技術教育支援センター資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・外国人の専任教員を採用し、英語によるコミュニケーション能力や国際性の向上を積極的に図っている。
- ・実践的な教育を推進するため、教育経験や企業経験を重視した教員採用を実施している。
- ・教員の自己評価、相互評価、学生による教員評価、授業アンケートなど、教員の教育活動に関する多面的な評価活動を組織的かつ積極的に行っている。

(改善を要する点)

- ・特になし

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目及び各専門科目では、豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授するため、教員が高等専門学校設置基準に基づいて適切に配置されている。

専攻科は学位規則に基づき大学評価・学位授与機構の認定を受けており、授業科目担当教員が適切に配置され、より高度で実践的な技術者を育成するため、JABEE 認定を受けた「共生システム工学」教育プログラムの学習・教育目標に従って教育を行っている。非常勤教員は、経歴や年齢に係る採用基準を満たしており、本校の教育目標を達成するために必要な専門分野を考慮して配置されている。

教員の年齢構成は、各学科ともいずれの年齢層にも偏りなく、全体としてバランスよく構成されている。教員の性別構成では、専門学科の女性教員が少ないものの、一般科目では相応な任用数と職位分布となっている。また、英語担当の外国人専任教員を採用し、国際性の向上に努めている。

教員の採用は原則公募制であり、教員選考規則に従って教員選考委員会を開催し、年齢、専門分野、各種経歴等を考慮した適切な採用がなされている。特に、実践的な教育を実現するため、教育経験や企業経験を重視した選考が行われている。採用や昇格に当たっては、教員選考規則に手続きが定められ、教員の自己評価を含む個人調書及び面接等により選考が行われている。

教員の教育活動の定期的な評価として、教育研究活動評価等委員会規程に基づき自己評価の充実を図るとともに、教員相互評価や学生による教員評価も実施されている。これらの評価結果は、本校の教員表彰にも反映されている。また、学生の授業アンケートを定期的実施し、この結果を学内（教職員及び学生）に開示している。

教育課程を遂行するための教育支援は、主に学生課及び技術教育支援センターによって組織化されている。教務係及び図書係では、授業、成績、異動、履修、学術情報等の教育支援業務を的確に実施するため適切な人員配置を行っている。技術職員は技術教育支援センターに配属され、各学科等からの業務申請に基づいて各々の専門性を考慮した適切な人員配置を行い、学生の実験・実習支援や技術相談に応じるための体制を整備している。